



EL3

認知機能低下に予防的作業療法は効果があるのか？

籾脇 健司

東北福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科

略 歴

1997年3月
秋田大学医療技術短期大学部
卒業

2002年3月
広島大学大学院 医学系研究科
博士課程前期 修了

2002年4月
東京都立保健科学大学 助手
(2007年より助教)

2008年4月
首都大学東京大学院 保健科学
研究科 博士後期課程 修了

2008年4月
吉備国際大学 准教授
(2015年より教授)

2020年4月
東北福祉大学 教授
現在に至る

【学会活動】

- 日本認知症予防学会
認知症予防専門士指導者
- 日本作業療法士協会
作業療法学全書編集委員会
副委員長
- 日本作業療法士協会
学術誌編集委員会 副編集長

【著 書】

- 高齢者のその人らしさを捉える
作業療法—大切な作業の実現
(文光堂, 2015)

【受賞歴】

2023年
第57回日本作業療法学会
最優秀演題賞

わが国の作業療法において、認知症のある人を支援することは多いが、その作業療法のエビデンスを提供する論文に目を通したことはあるだろうか。地域作業療法においては、2006年、五大医学雑誌の一つであるBMJに報告されたGraffらによるランダム化比較試験が代表的な論文である。本論は、演者が地域作業療法のランダム化比較試験を実施する際に参考にしたもので、文献レビューを実施してたどり着いた記憶がある。この研究であるが、Gemini 3 Proに「あなたは地域で働く作業療法士である」「認知症のある人に実践するためのエビデンスを知りたい」「代表的なランダム化比較試験の論文を5つ示して欲しい」とプロンプトに入力すると一番先に表示される。論文のURLを合わせて提示するように指示し、出力結果と実際の論文内容に相違がないか確認(ファクトチェック)すれば、短時間でこの領域の主なエビデンスを知ることができる。

このように生成AIが普及した現在、研究エビデンスの入手は容易になりつつある。しかし、実践としても研究としても、比較的、歴史の浅い予防的作業療法の領域ではどうであろうか。なお、本領域で参考にすべき「認知機能低下および認知症のリスク低減のためのガイドライン」(WHO, 2019)や「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン2022」では、作業療法についてほとんど言及されていない。認知症の前段階とされる軽度認知障害を含む認知機能低下を作業療法によって予防できるのかは非常に興味深いテーマである。これを再度、Gemini 3 Proに聞いてみると、これも五大医学雑誌の一つであるJAMAに掲載されたClarkら(1997)によるWell Elderly Study(後にLifestyle Redesign研究として発展)と軽度認知障害に特化した近年の介入研究をエビデンスの基盤として考えよと教えてくれる。

本講演では、このテーマに関する演者によるナラティブレビューの結果を示し、生成AIによる出力と比較することを通して、作業療法士が生成AIをどのように活用すべきかを考えたい。